

第3回新しい学校づくり基本方針策定委員会 会議録

○日時 2025年2月6日(火) 16:00~17:30

○場所 須坂市防災活動センター活動室1

○出席者 委員9人、事務局5人

1 開 会

2 あいさつ

勝山教育長：

- 今回は基本方針案に加えて、もう一つ大事にしていかなければならない須坂学園構想の特色、魅力をどう伝えていくかというところ。また、アンケート結果から市民の皆さんがどんな願いを持っているのか。学園構想を進めるにあたって、どんなところを大事にしていかなければいけないのかなどについて、ご意見をいただきたいと思います。

3 議 事（進行：委員長）

事務局：

- 議事（1）～（3）まで一括して説明

（1）須坂市の小中一貫教育リーフレットについて

（2）基本方針（案）アンケート結果について

（3）基本方針の策定等スケジュールについて

（4）意見交換

委員長：

- （1）須坂市の小中一貫教育リーフレットについてについて意見ををお願いします。

委員：

- 特色その1の四つ目。単元内自由進度学習という言葉がこれからも使っていく言葉になるのかどうか。各学校で力を入れてやっているところではあるけれども、どこまで理解されていくか。単元内自由進度学習の捉えは、学校で全然違うので、その言葉を個別最適な学びと協働的な学びの一体化という言葉に変えてもいいのかなと感じています。
- その「ふるさと学習」の須坂学について、私の願いとしても須坂に誇りを持つ子どもを是非育てていきたいと思います。その中で須坂だけを学ばば、須坂に誇りを持てるのかというところが、ひとつ疑問にあります。須坂学でも最終的には、須坂の外と須坂を比較しながら、市外県外、さらにグローバル化の言葉もその中に入っていますので、国外

にも目を向けられる子どもたちに育ってくれることを願っています。

委員長：

- 今、意見があったように8年生、9年生の内容のところに、須坂市が抱える課題について、その他の地域や世界と比較しながらなどの言葉を入れられるとよいと思う。

委員

- 単元内自由進度学習や個別最適な学びは話題になっているが、学びの孤立化に繋がっているという指摘もあるので、やはり「個別最適化された学び」と「協働的な学び」という言葉は入れた方がよい。
- 教科担任制のところで、国では4年生の教科担任を算数、体育、理科になっている。音楽、理科は従来の専科の使い方だと思うが、今4年生限定だが、これから3年生に広がってくることも考えられる。教科は書かないというのも一つの方法。

事務局：

- 教頭会や研究主任研修会でも小学校の教科担任制導入についてお願いしてきた。実際に学校訪問すると、この学年の算数は両クラス自分が持って、違う教科は隣のクラスの先生が持ってきてくださる、という形で、純粋な教科担任制ではないとしても学年ごとに工夫されている学校が増えてきている。
- 音楽、理科が一番分かりやすいイメージとして記載しましたが、教科を取って、一部の教科については教科担任制の導入という形で考えたい。

委員：

- 教育論を踏まえて小学校4年生と5年生の間で線が引かれているとのことだが、現場の先生方にとって、このことについての違和感はなく、実態に沿う形として受け止めていると理解しているのか。小学校5年以降に教科担任制を導入するという趣旨も併せての表現かと思うが、効果検証を伴う観点からすると、この構想がここ数年の構想ではないという点やフレキシブルに対応する予定であるという点を共有することも重要であると感じた。
- 「須坂学」に関して、あるものの良さを知るためには、それ以外のものと比較するというのも重要である。他自治体や他県の取組と比較することで、改めて自分の地域に対する理解が深まるのではないかなと感じた。
- 「新しい時代の新しい教育」については、成果と課題の両方を検討していく要素が強いと思われる。効果検証を伴いながら推進していくというニュアンスを関係者で共有していくことが重要ではないか

委員長：

- 4年生と5年生の間の線について、事務局いかがでしょうか。

事務局：

- 一つは、学力課題への対応をしっかりしたい。須坂市の場合、小学校高学年に課題があることが数字上見えてきていますので、高学年のところで教科担任制をできるだけ早く入れたい。
- 二つ目に、いわゆる中1ギャップの問題があります。令和5年度の須坂市不登校児童生徒の新規不登校数を見ると、小学校5年6年がそれぞれ7名、それに対して中1が14名、2倍になっています。これを考えると、須坂市の小中学校の間でも中1ギャップがあるというふうに考えざるを得ないので、この対応は急務です。
- 三つ目として、先月号の食育だより書かかれていましたが、発達の早期化。6-3制が引かれた昭和20年代から、今の子どもたちの心身の発達を考えると2年ほど早まっている。実際、統計的にもそういうものがでています。そういうことから2年ほど前倒する方がいいのではないか。そういう形で1から4年生と5から9年生の4-5制を採用していくという形で考えています。

事務局：

- 基本方針案について、学校でも先生方に説明いただいたと思うが、先生たちの反応として、1から4年生と5から9年で分けることについて、どんな意見があったのかお聞かせいただきたい。

委員

- 1年から4年で学校が成り立つのかという意見。4年生が最上級生になって、児童会はどうなるんだろう、縦割りは活動の中ではリーダー的な役割を負うので、大丈夫だろうかという不安が出てきています。
- 小中一貫教育になれば、出来るのであれば同じところで1年から6年生までというのが、いいんじゃないかなという声がありました。
- 4年と5年に線を入れないで、ユニットみたいな形で表記した方が柔らかい。発達もグラデーションみたいなところもあると思うので、そこら辺がどうなのかなって感じがします。

委員：

- 1年から4年で学校が成り立つのかという意見も多かったです。例えば研究主任会に参加した先生は、学校ではここに線が引かれるのは心配だな、と意見を持ってたんですけど、そうではない教育活動のあり方の可能性もあるっていうことを、研究主任会で聞いてきて、自分ではそういう発想がなかったから、そういうことは自分では考えてなかったし、今まで何でも5年生6年生が主体だったのだけど、そうじゃないことだって、あるのかなというふうに、ちょっとそこは刺激があったと言って帰ってきました。

委員：

- 学校の先生方の不安感をよく理解できる。リーフレットを作るということだが、そこをきっかけにコミュニケーションを取っていただく努力を教育委員会にしてもらいたい。皆さんの理解を深め、不安感を軽減させていく意味合いから、ぜひお願いしたい。

- 須坂市の新しい取り組みについて、何らかの形で子どもの声を聞く場を作る努力もしていただきたい。

事務局：

- カリキュラムとしての4年生と5年生の線を、第一学園の施設分離型と一致して見てしまうと、今みたいな議論になってしまうのではないか。この線は児童生徒を分離するわけではなくて、発達段階として4年生までに基礎をしっかり育てて、生活的なものもしっかりやって、その後自我が出てくる時期がどうも発達が早まってきているので、中学生と同じ過程の中で育つ方がいいのではないかということ。私達はカリキュラムの成長の中で、4年生までにこう育てたいと言う意味で線を引いている。

委員：

- 英語のグローバルスタディで、慣れ親しみの充実や英語学習の充実が縦線でくくられているが、線を取って全部一つの帯の中にグラデーションみたいな表現だとよい。5年生からは教科だけど、慣れ親しみは全然やらないかといったらそうではなくて、スパイラルに全て繋がっているのだから、英語は縦線を付けない方がいいのではないか。

委員：

- 縦線で割っていると、これを必ずここでやります、というふうに読み手は理解してしまう。ただ、最後のページに、「教育課程の骨子と当面の必要部分を作成し、実際の教育活動を進めながら編成を進めていきます」とあるので、例えば学級担任制とチーム担任制に矢印があると、スムーズな移行を進めていきますというようなことになる。

委員長：

- 委員の皆さんの意見聞くと、縦線で区切ることの是非、グラデーションや矢印を使って表現してはどうかという意見が出ているので検討していただきたい。

委員長：

- （2）基本方針（案）アンケート結果について、ご質問・意見お願いします。

委員：

- 学校に来られるボランティアの方やPTAの方に聞くと、学園構想って何、よくわからないという声を皆さんから聞きました。第一学園、第二学園といろいろ書いてあるんですけど、わかるように今後説明していくというのが大事だと感じた。

委員：

- なかなか伝わっていないという部分については、Q&Aなどで説明していくことが大切ではないか。
- アンケートの公表においては、どなたかを傷つけることのないように留意してほしい。

事務局の提案のとおり属性の学区と自治会は非公開でよいと考える。

委員長：

- （３）基本方針の策定等スケジュールについて

委員：

- 小学生から意見を聞く時に、学校の先生方で子供達に聞いてくださっている学校もある。そういう形でいいかどうか。

委員：

- 高学年で担任の先生が、子どもたちが分かるように説明して聞くことはできる。

委員：

- 低学年に聞くときは、自分の学校がなくなるというマイナスイメージだけを持って、それだけで嫌になってしまう子もいるので説明の難しさがある。

委員：

- 新年度で教職員の異動があるので、改めて教職員にも説明の機会を設けたい。

委員長：

- 以上で協議を閉じます。

4 その他

安川係長：

- 須坂子ども学びを語る会要望書について説明

委員：

- 要望書に対して真摯に対応していくことが必要であるため、関連資料の公開や結果の公表等をお願いしたい。
- 教育論が見えにくいという指摘に対してはこれまで須坂市教育委員会が取り組んできた学びのあり方検討会議や、新しい学びの須坂モデルなどを改めて示していくことが必要である。

5 開 会